

「財布と袋と剣を持ちなさい」

2015年12月19日

ルカによる福音書 22章 35節～38節。それから、イエスは使徒たちに言われた。「財布も袋も履物も持たせずにあなたがたを遣わしたとき、何か不足したものがあつたか。」彼らが、「いいえ、何もありませんでした」と言うと、イエスは言われた。「しかし今は、財布のある者は、それを持って行きなさい。袋も同じようにしなさい。剣のない者は、服を売ってそれを買いなさい。言っておくが、『その人は犯罪人の一人に数えられた』と書かれていることは、わたしの身に必ず実現する。わたしにかかわることは実現するからである。」そこで彼らが、「主よ、剣なら、このとおりここに二振りあります」と言うと、イエスは、「それでよい」と言われた。

上記の御言葉は難解な個所と言われているが、主イエスの捕縛が近づいた緊迫した状況を背景にしているからではないかと思われる。主イエスは弟子たちに「財布も袋も履物も持たせずにあなたがたを遣わしたとき、何か不足したものがあつたか」と問われた。彼らは「いいえ、何もありませんでした」と答えている。主イエスが弟子たちを宣教に遣わした時、「何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない。下着も二枚は持ってはならない」と言われている。宣教団は無一文の素手で伝道した。麦畑を歩いている時、弟子たちは麦の穂を摘み、揉んで食べたと記している。空腹であつたのであろう。貧しい宣教団であつたことは確かである。しかし、彼らは宣教地で好意的な喜捨を受け、不足することはなかった。弟子たちは、そう答えている。ところが今、主イエスは「しかし今は、財布のある者は、それを持って行きなさい。袋も同じようにしなさい。剣のない者は、服を売ってそれを買いなさい」と言われた。そして続いて、「言っておくが、『その人は犯罪人の一人に数えられた』と書かれていることは、わたしの身に必ず実現する。わたしにかかわることは実現するからである」と言っておられる。イザヤ書 53章 12節 b に「罪人のひとりに数えられたからだ」と書かれていることが、私の身に必ず実現する。主イエスはこれから、捕縛され、侮辱を受け、殺されることを知り、覚悟しておられた。そうなれば、弟子たちは犯罪人の仲間と見られ、以前のように好意を持って、喜捨などしてくれる人はいなくなる。財布、袋は持っていなければ、身を守ることができない。財布と袋を持ちなさいという言葉は理解できる。しかし「剣のない者は、服を売ってそれを買いなさい」という言葉は理解し難い。

マタイ福音書は、弟子の一人が捕縛に来た大祭司の手下の耳を、剣で切り落とした時、主イエスは「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる」とたしなめたと記している。主イエスは暴力に訴えて、事を進める方ではない。常に非暴力で、不義と偽りに抵抗されてきた。にもかかわらず、「剣のない者は、服を売ってそれを買いなさい」と言われた。この言葉は弟子たちに、緊迫した状況にあるということ伝えるために比喩的に語った言葉ではないか。弟子たちは「主よ、剣なら、このとおりここに二振りあります」と答えている。二振りの剣で、大祭司から送られてくる神殿守衛兵に刃向えるはずがない。主イエスは、「それでよい」と言われたが、弟子たちが忠告も理解せず、状況判断も全くできていないことを知って「この話はもう十分だ。ここで止めておこう」と会話を打ち切ったのではないか。いずれにしても、捕縛の時は迫っているが、弟子たちは極楽トンボで、とうへんぼくな対応しかできなかつたと伝えているようだ。